

2022年9月20日

各位

三井住友信託銀行株式会社

サステナビリティ・リンク・ローン・フレームワーク策定支援および
サステナビリティ・リンク・ローンの契約締結について
(九州旅客鉄道株式会社)

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、九州旅客鉄道株式会社(代表取締役社長執行役員:古宮 洋二、以下「JR九州」)のサステナビリティ・リンク・ローン・フレームワーク(以下「本 SLL フレームワーク」)策定にあたり、サステナビリティ・コーディネーターとして策定支援を行うとともに、本 SLL フレームワークに基づく「サステナビリティ・リンク・ローン」の融資契約を締結いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローン(以下「SLL」)は、借り手の経営戦略に規定されているサステナビリティ目標と整合した「キー・パフォーマンス・インディケーター(以下「KPI」)」と「サステナビリティ・パフォーマンスターゲット(以下「SPTs」)」を設定し、貸付条件と SPTs に対する借り手のパフォーマンスとを連動させ、SPTs 達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指すものです。

JR九州は今後も金融機関との間で継続的に SLL に取り組むことを想定し、本 SLL フレームワークを策定しました。本 SLL フレームワークは、同社が取り組む SLL に関する SPTs やローンストラクチャー、レポーティング等の要件を統一的に定義したもので、今後同社が各金融機関との間で個別に SLL を取り組む際に汎用的に活用することができます。

本 SLL フレームワークは、株式会社日本格付研究所(代表取締役社長:高木 祥吉)より、ローン・マーケット・アソシエーション(以下「LMA」)(※1)等が定めた「サステナビリティ・リンク・ローン原則」への準拠性および設定した KPI と SPTs の合理性について第三者意見(※2)を取得しています。


当社では、SLL 等のサステナビリティに関するソリューションの提供により、SDGs 達成に資するお客さまのさまざまな事業活動を支援するとともに、お客さまの中長期的な企業価値の向上に貢献することを引き続き目指していきます。

<JR九州について>

JR九州は、九州全域に鉄道網を有する鉄道事業をコア事業とし、駅ビルやホテル、マンション、建設、船舶、流通や外食事業など、鉄道事業との相乗効果が高い領域を中心に事業領域を拡大してきました。同社は、「あるべき姿」として「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気を作る企業グループ」を掲げており、安全・安心なモビリティサービスの提供を中核に、地域の特性を活かしたまちづくりを通じて、九州の持続的な発展に貢献する取り組みを推進しています。また、JR九州はマテリアリティである「脱炭素社会の実現」のため、2050年CO2排出量実質ゼロを目指すとともに、鉄道事業を中心としたシームレスな移動の提供・利用促進により、社会全体の脱炭素化に貢献していくことを目指しています。

<KPI および SPTs の概要>

本 SLL フレームワークは、以下の KPI と SPTs を設定しています。

KPI	SPTs	SDGs
JR九州の Scope1 及び Scope 2 における CO2 排出削減率	Scope1 及び Scope2 の 2030 年度における CO2 排出量 50% 削減 (基準年である 2013 年度比)	

(※1) ローン・マーケット・アソシエーション (LMA)

欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会であり、60ヶ国以上に属する 700 以上の機関が加盟しています。

(※2) サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠性および設定した KPI と SPTs の合理性について第三者意見

株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以上